

8 7 6 5 4 3 2 1 0

80

70

60

60

6 7 8 9 10

首
書

源氏物語

六齋



二十七



。河卷名ありてこのとこうづきいろとえハシヒカネトノヤアズ
。花以羽并哥巻名但羽はうづきことあり一物二名也又キヨハシモ
。要矣三十六歳の六月でかくわく人室の途也

○中將の君
細々霧也

○寺主殿上人細六條院家也

○又川河西川ハ桂川東川ハ賀茂川也此兩河の鮒供
花西宮抄云禁河堤河左歩く府檢知葛野河右歩く府檢知已上其供鮒
今案堤河ハ東川也葛野川ハ西川也

。らき、河乃 河賀茂川也 下略
花亭子院は集云りゆやうのものまへそす
ちてまつと うか 因少す中とうあふいとも
えさせひつあゆ一こじく一こいゝゆよみづれさ
せわゝもきこすとくへをそおとくおまくよへくゆて
てくせきをひてきくしてまつ
和名 鯉 音夷和名伊之不之性伏況在石間者也

ひやう花 松草す云いアノカウタヒリ中ヌ
いりうきととせんと扇の風もナアヒ水ヌ手
をひアテモテさくさかよ
弄氷水ひやうう水也
○とくさん花 うか十二宮あくとさりせぬ
てのうとくとくてもうアヤマツアリ 今案

水餃ハ今世ひいぢと名付てふ物也
日のとよ細夏の景氣あらう

水の上ひくう 細源氏の約也 さきそ奈
院ハ涼きあらうよつてこひの外すも
さうてあらう也 腹固生微涼の心
河清牧納言松草云無徳すらのせ子の方
よど舟也
いとうこうは細とくことく
弄ひつゝくこひ也

細人わいじんと 河帶叔
細人わいじんとまひとも

自のとよくあらうあるこそアハ
うとよあらうかどせとのとよを
もひとかへげよまにのせば
まのとむもあらうのあは
うとよもじくのつてはゆりされ
うんやとて、うりうおなう。いと
ちうのあらびかどよのとよ
ますふくへ、ぐるりとく
くれ、まづくすりうねぐと
くらんがおじかわらう
やまと、うとくとくらんがれ
あらうかわらんとく
めぐるくわざこひりう
とくらむのせかへ、うとく
おおきよじよくわらしてせん
のとむおぼつまくやがどのむ
てとくづくせうて、うじで
ゆくんねがくわらがく
かこまうらやうみて、うか
くまくまうらよせあまく
おののせうわくのじく
うひもがづくおとまく
きくまくまくとよとく
弁の女将も 巴批柏木才也

細ほどの約也
巴批近江の君れうとひひ也
孟 各の財也物語さとひせとくあ
あうもて也

弁の女将も

未定

細井牧將の詞

此春のう 春夢のす 金より爰よりハ春比
といひ春比乃のむしと可心得るや
河をもくもむかふとこめどあつとひそむくうせ
人をまよひて 小町

○中將のあそん 孟水 柏木のままでつらひを
うと弁財將の冠也
ゆきもひ 弁 財也 縁くつら心也

よもじりぬへども。て
てりひをうさぎとまむは
さうりく。あまのまのまくわひを
がくら。おなづかとがのまはは
けりきんがのこせら。とがのまはは
てきとあくとがのくせら
を。ゆめのむら。くわはまくわ
よやくふもれし。ひわ。ご
き。やあくと。ざひま。ひ
くわ。くわ。くわ。くわ。
す。よみ。くわ。くわ。くわ
よく。くわ。くわ。くわ。

。きみんすま 河家損 家のきどり心也
。あくとうと、うと 細きひまととうよと治
定ひめくへ ほ氏の心也
。ひと多くあ、細ほ氏の心也。すと内大臣の心
子ととあまこけく物ととこ
。けよくられ 河雁ハまつ父母兄弟次第よ列と
乃了ととを物也テ是と行雁の礼と云也
好忠集 ふいとうもひとくもゆてとくうれを
ひとくと我おうと
。ねつまさと 細あまくよみやうとも骨羽
槿巻雪きまくもれでタよあづきも貪リ方
心也 或掛フツケシ 貪ハシナガ
。のくらこよ 河之 細濱氏の心もくもく
。名のくも 細濱氏とすもくじゆくせん名の
出ろんことをと

細内大臣もさうのうへひやくと
さうゆめりし也
河心のうみあつよとくとく方
案之致仕大臣左道のうみあひとも有て卑賤の腹
ひとすくとくせ子のいそとくとくへまとほ氏のいそ
きとく也

。中將の君を 細花鳥々勢と云ふ如何是柏木也
此より柏木悉皆取持てち出ひまつゝ、弁妙なよ
うにて此よりとのみひくろ也
。之より細通氏の此より子細を委知
らすよりは柏木ハ口ともわざがはざむ
。状將と藤侍從 細爰にてアリテ連枝を
あもて云也

○あそんやさやうの花落漁腹と云也
細々勢をうてのひく雲舟雁よひひひ

河我やくのひよりの君
の、同一くとどくとも、せむ、雲舟雁近江君
姉妹うれ、おうくとひア
花致仕大臣の夕霧姫君をゆきみる、とゆく
君の無念よらみての御羽也
。やれども、細ほ民と内大臣との心もひ
或掛ひりとりそらゆきよわきしほも
ありて、まう不和うる也
。さて中ねと、万水夕霧と内府の聲よ
ひねまく、迷眼は源氏の心もと心うる

○やうやくのちへ或抄 源氏のわざりをもと嘲
呼のやうよの筋と内大臣はまくらと筋也
○うとうてねよ 細 近江君とさよ出でぬと
ききよまを玉うとアセキキテハトカヤモニ
又あくううアツ水玉うと内府ええあす
時まくらと
○とてうみれんや 細 やハ羽の字也

細内大臣の事也
細人の善惡の事もあつて
えきてきらり奔内のかへりへとこそ
あくえくむらうもへよどふくとも
ゆよゆく或秋近江君とさそりゆく
おひがさんとも
あやみあつて細一而よちせんとす
まこと

を身へ一歩りて、かくわざり
りうるはせうとがんとめうり
きをまんばえあざやくらみ
くもてちまくまく人あや。
とぬまぐらひあくら
つむれまきだあさひら
もぐわふりてやうづゆは
ももとむじも。今もあらうや
あれば、かみとおがくと
はみゆて、のむと

きよやのひでりわとい
うのぬけふのももく
まゆあらわれいえ
ごすがねとおじたとへい
とおりおなやあいのちと
こどにひくべへきくふのほ乃
すがんぐりかまく
あんぬきてまくあんとおじ
あらありやうのくしてざく
らむれは申のむ
よひまくげよまうてけぬと
ゆくつたあきて、とくじをひく

のと二ひし 細玉うへと内大臣よりをも
ハナヒカヤシムをもうてう養育をも
と随分の高恩アトれをそぞんとほ氏
の心れ中也

心やどく 細 涩氏の羽
或接源氏のうの候そんま各コドモ次第
夕霧さよアシモシテ也

すのまは細玉うれぬ方也

おまくさき 巴波 中央將同裝束也
おもひわ君と 細 よくとよ大切て心得て
おいてハ外へ出でくとも

生ひて 細 ケキアヒて涩氏の羽也
○女侍從 細 是より涩氏の羽

おまくさき 花直人とも云也忘の内もと
おまくさきも推測してうれども中央將の實
波のうて勘酌しうようて外あややまぬ心也
細夕霧の實法どアリ 弄一見拍手ア
此くハ万水中将ともうて皆季うどア
一とくみハあくーと
おまくさき 花直人とも云也忘の内もと
ハあやのあよあう人のじとと云也
河 養在深窓人未識

○河 細碎 白氏文集
或接源氏の卑下しての羽也
細さかとうもんとくらももあつま
ひうふ是ハとくとも

○おまくさきの或接源氏とくらももあつま
を明石姫君いうて人のきアシトうき
ゆびももと今まハあくーと也
○うえもの 巴波 玉うのまきとまき

。ねまひ只ひと細人くわ心乃かよどむ也
ふく本意よもやうとも

○アラトリカウミ花
アキニルトモアヘモテ
梅子ハリトトコアヘモト云也 梅子ハ玉アラユタ
シテアリ 算木巻ニヨ山うつのうシヤアリトモトイ
ルアリニキトロトトコアヘモト也

アラカリヨリテ 細殿上人トシトニ其ノモ也

右の中将ハ花柏木中将也

。まうと 細 岩とう水のうの後ハ丈ハヨ
とうとも也
。まうと 細 すこもうちやうよハ
ねまくさうとも也
中乃君ハ 細 夕方也別工傑坐うる也草子也
中將とひ花 やくハ内大臣ヒツセトウス
丑うの君との山物語也
細 沢氏の刃を弄るとゆうれうる也
まうと 細 后うるも皆立へきとも

中將とひし花やく内大臣とひ先づく
玉くの君との萬物語也
細源氏の羽毛筆もとゆうされざる也
まつやのう 細后をも皆立へまとも
玉殊々ハシミトヨリヘ
。うづくみふ花夕方の心頑字也是六頑
愚う心也。コハアヤマトシテアラムタマタマタマ
。ミタキハヒ花是ハ玉くの医者也大君を
りよつきて我家の曲几羽とひてうそい

のよき也文藝れども之ととちりて大凡いへ
そはうきさくよそぞれのむ地也
ソシテの西國の花卅石者と我家の望みア
トクニニ聟入の作法と云セ 細波氏の翁
河我家ハトモノ帳とトマサウト大君ニモセ
ヒヨセ人アシクシクシヨ何トモカナヒミヒミモ
セトキ人 催馬手
功業アシクシクシヨ河万葉岩代の野中アシクシクシヨ
松四ヒトトモヒトヒトヒトヒトヒトヒトヒト
細ニ条宮ヨアシクシクシヨ時ノヨ也

細齋陶然也
或歎鳥呼と嗟嘆の如く
さへうら花是ハ玉うら心よしむす也
細毛ハ婦氏と内大臣との間中うへてゐる
きりとも也

月とうきよう万水六月の末つゝもひ八程のま
うと近そ万水町も近きやうきゆうそ

。引とせて 万水 ほどの彈むるゝへ

アラシヨ トトロ
夏也如何 或歎律ハ秋冬の
調子也不審也 但六月未うんハトモ 其上律ハ女
の調子トトロ

。之よりて、細和琴と云也。玉うるはやの方
へまきぬはうとうひわうとうじよよくす
へゆきも。万水萬民の心也。或歎曰。萬民の羽也。

秋の夜、万水是よりく、和琴のやうに
やうとひめ也

。やくは 月夜の夜の夜の

。とくに或様 筝ハ十三絃也 絃數多ア
多モト也 和琴ハ六絃也

。このヒメ 細 和琴ヒメ
多モト也 細色くのカミヒメ
音調子とくの物也

。やまと 花 和琴の事也

細皆東ハ高麗唐土の乐器多也

。さハとく 或様 和琴ハ六絃也 ハスムニ
シテハトクナラニシの事也

。と國乃 細サクの事也 十四弦也

。物トシ 細ヒケハ 琴トシ樂ニカシキ
近代大々絶^レル
所ニ心^レテ万水 琴ハタニシ物トシキ
トナハタニセド^レリジテ^レシカシキ

。豈のあく 盂 内府ヤとの上手^レトの事也
。さ^レ 奉 和琴ニ有^レト也
或^レ松管攬^レ前^レ註も

。そ^レ也

。かのく 細 玉^レハちと心得^レ也
。いと^レ弄玉^レハ父^レト^レト^レひ^レ也
万水何^レモ^レ引^レヒ^レト^レの事也

。このヨリ^レ花玉^レの羽也
細 内大臣^レ引^レヒ^レモ^レウ^レ也
。や^レ 巴^レ山^レ花玉^レの羽也
。ひ^レ玉^レの羽也

さへもれそへ或ひそへもよし上手の
あうすう上手のハ各別うきよやとも

ヨシノ 花是ハ源氏の山羽也

名をよちくアリ細あやしさ山うつくしとア
スカスカ中ひうちやうす也
内生人のゆゑひとを 河圖書寮 和琴テ伊勢語
伊勢無尊は代々令作出れども仍諸樂器の最上
とうと也 花季

うの事よりやうに巴秋 真實のあやうりべ別而
よりんとありやうく也

ひてよもと細此をうつてさうらへきゆゑひ
のうえとよとわうづく返答うれし也

手あやまこと細へてひとよて手をあやまこと
ひくまゆかわうたこと

のうもとつちよハ万水 親子の間うれハ源氏の
くのくのあせ

とづひ花 独氏十巻 極云 とづひとさい
三段有とづひハ人のうへつをもと也とづひ其姿
かつやくべつ物々也 とづひをもとめやよあひ
とづひ也自由の曲よどせもとづひ姿と云すりあひ
心性よどせりとぞもとづひ物々也とづひ
人の大足よとづひ足よとづひ風情也とづひの
よとづひ事の字也和琴の字よとづひとさい
只人れあくよとづひつまくも不可用之
細きよとづひ四字よとづひ也とづひとさい

多摩川の河 催馬乐呂 貫川のせりやりたま
やウよりよハウてゆくらつま下略

細やうたまくはくよ時よりまこと上れ
よつててこゆつといひ
あやまくつま 細ニ義うる源氏の内大臣とさをね
といひ又えの義ハ源氏とあやのやうと玉うの
ねももうといひ也

ひて引ひ、細一切の義
トモト也、乃ト一也

○さうゆきの花 唐の書よハ相史隣とももくえ
よハ相史戀とうじ心ハ同す也 男と女とともく
えよりて女ハその心」とひくへしといふ

初色青翠而細長者名之爲含笑

のうちの中の花もよ花をまばらに咲かせむ也

河王女孫王の女也
或歎親王の未殊乃物もうへううとまつて

細玉うの角源氏は今ちとあるハ
ト也或は玉うの心也

此處一望而知是萬水千山之秀氣也。予謂之
「天香」。

アラクマム花是ハ源氏の返答の語也
河耳うきさへと玉うどと心も源氏の和琴引出と
季うれ君いううれの吹うひてくいひまむと
りくらよ我ハ耳うきあわとよくひく也季う
分ううて我りよともううきよとも
ウムヤマ一巴歌今歌ミタカナリウモ

おうそこと細生ハアリタリ也
或秋原氏の羽也内大臣の公達のる也

いそよくも細玉うねりと含み
世もひと巴掛玉うのこと内大臣へうすひを
と色我もぐも不定の世界リとくや
のうへ物乃花昔れ雨夜の物語れつせて
うそくみゆきとのひくも也

めと哀也 乗 夕角上のまことひふらひて

どもえまひでう
あてもせぐのうらうか
アヤムのうもくもあがのくを
キムセウトアラタニテ
ヨムモトカのうでよみりりで
タクヒ・ヒトのう
ムツトシのうでよろす
アタマ

もうそ、あま、源氏也花、野宮哥、金判哥順
被ふれとこちうて、こ花の色と、さうひとをうめ
そくううき、今案もとづくよハタ貞上の事と
いづる山ろのうきがわくともやくく、公哀とうきよを
しみる。此あよよかう約也、ゆうと内の大臣よ
々をやうへかのせぬとあやひぬくへうりう
ス、ことせ
まゆうりも河へうきのあやれうくのまゆ
うりうりうりもあうくじよあうくじよ

花是玉うの心也。細りよきもと也。
山う乃え玉う也。花玉うの心よハもとより
里てハ内大臣を何ううむねんとくらむ
あせぬくの心也。
細我身とも母上とも卑下しも也。

○一之三ノタノクハ花木等有ヘ未見出之
細心ハ唯今ニテノ出立ハクル一事トナシテ也

まくらへまくらを 万水 王うへ文とまうせられてハ
クシハぬととくらへ出で切く文のくらふと

○此皆以細密、思審為也

。かひきとことと或抜添氏のむ
しゆくを愁ひうあらまうとも

。かひきことと或掛源氏のむとあとのひす
。かひきことと或掛源氏のむとあとのひす
。かひきことと或掛源氏のむとあとのひす

人の命より或抄玉うのあせりとも

○春乃上の細紫上也

卷之三

うそをうそと見ぬる者、かくの如きは、必ず
あらまこと也

我身ひとぞを 万木 倭氏^{トモ}を至る^ト也
おわりわざとくともと也

○とうとううるゝご納言の花 納言がどのみかん也
とも二心なく此姫君とゆきし六中く我よひまもろ
て臣民の如也ひきうちれ大将もものとよ
とうとう

ひとく引うて 東都 王うのゆき上せりとも
。まことにそれ 細兵部卿官大將まことのゆき取
てゆきひそひとを 花鳥の紋如何
巴摺あるきへ引とりれてハ文無本意さとるまこと
絶えさんかどよとをひきこよひくとくさん
くとおとと心得てされとこくらむとく心得
ゆきこもんや向まことひきこ也

ヨウアリヨ 河平 日本紀
巴移玉アリモ源氏のアリ立てわくへこす
をさき心と衝アシナヒ知也

○もんくもんぬ
○お城 トヨカヒヨリノ一也
○アラキヨ お城 玉うさの可然とほののたま
きよえひもれぬまこと也

○又先そぞみうる細官大将を聟みよとてひう
へどくへきうとも也因守つとくとも物をとひひふと便

江東集

おもせうれぬ 花せうれぬといまさせうれぬ
心せひほどの姫君といひゆひくとゆのよう
ウことりよ也

花人ハせくともさうすまし心也
久保田守と常其人と安養

花是ハ浮城の心よとやせまくやせま
といきとぢひきくわねやとのうじゆれ、じつ
ことを巴歌又やう心うううともせ聾
きくともハとの心ううし

のものちよ 東城太き也 波氏のわぢひも 大き
みとくさんとるく思案一

もつてこ或候玉うれすか玉うと方考
てのそんうすねハ世の常よひあることを
草子地也

此今のはじもあ 花近江君のうせ

おのへも 万水 内府の家へもうろへひるを
おまつろ 弄かせくへらすと云わる
細やうきるあと云羽也
おとめつてよ 細ほ氏のひがへと大
臣へすすむ也

此今のはじもあ 花近江君のうせ

おのへも 万水 内府の家へもうろへひるを
おまつろ 弄かせくへらすと云わる
細やうきるあと云羽也
おとめつてよ 細ほ氏のひがへと大
臣へすすむ也

このいぬのゆりとものとを
ひきうちてくさりとすとすとすと
おのへもゆりとすとすとすとすと
がきうちてくさりとすとすとすとすと
よのかのとものとすとすとすとすと
のとくとくやととひがひとと
えにしきだ。づひがひとと
うとよとよとよとよとよと
まくまくのすしりへあておは

細 是とう内大臣の羽
おとまよと巴被はれふと山うるのまとひ入
てと玉うのまとありせくへせ

人のえりくき 巴被はれふのまとひ急別アハ
くみ心と也
此玉うれすハ 或候内大臣のまとひ(ハシテ耳
をもそくひかくへおと也 波氏の相手うへ
わからぬハ 我家のあんかくそく也

此將の細玉うをやめぬ也

おとまよと巴被無事うとやめぬ也

おとまよと巴被無事うとやめぬ也

いてそれハ 細 内大臣の羽波氏のゆじもあと
まくまく名もなにゆうるへ

かくまくのすしりへあておは
うとよとよとよとよとよと
まくまくのすしりへあておは
おばとあるわらへまくとのねがお
うとよとよとよとよとよと
みうのまとよとよとよとよと
うとよとよとよとよとよと
かくまくのすしりへあておは
うとよとよとよとよとよと
まくまくのすしりへあておは
おばとあるわらへまくとのねがお
うとよとよとよとよとよと

ハサウエー也

あらわすやうの花 ちうもつみハノキアリ
ね也此世よとひてうへるハモニ

あらやうわんと 孟 内府の御心を案
明石姫君と后よりゆへきと也
の今姫君 細 實子とあらきよと
玉うのゆ也

のとぞ、さあ、万水、源氏、はうとわづくと、を、ひも
うりうれとうき、もくよ、ゆ子のやううそ、可然と内府
のひやく、ぬ約也

孟玉ううといふやうれいじいよ
ききわみをとせ、兵石と心ううとの心也
えくとも、弄、金兵部卿のゆうとのゆ也
細あえびえ、お咲、あらかこ、おれよ

○うとひやくわくひ或妙兵石と玉うと可
然間うくとも
○うと姫君の花雲牛雁のう也
○ゆきとロサ
万水玉うのとよ心う
もとさきんとあひよ々々霧よ防シテ音道

○ナリナセ万水玉うのやくよへくまほ
クさんとらひーよと也

位さううと花夕霧の中将の位もあう所
て後じよまことくんとらひぬ也

○うれりくせせ秋口入連氏のトモ
あわせれハシラさんと也

○もとと孟夕霧の方う心うねのねむ

○くをき花内のかくらひもまく雲
舟雁のゆきこもすが也

○あうりく万水涼しきるまき

○うちくわあねと万水ひくはまか
りひくちき

○くを万水女房達と本アのくま
扇とく

細内大臣也

○うれハ河 窮シタチ 假寢莊子 拾遺シテモト
あやのいさりシタチ うれハねりすけのよそ有シテ
細シタチ 近シタチ ねると、いさじろすと也
地シタチ とくとく或拂シタチ くくくくくく近シタチ わせま
一シタチ こよと色一切の心つひもくもとと

。人を 巴桺 女房元の事也
。女ハ弓を 細 ドリ也心とつて

○而後已也或披上以也

。あくこゆそ 万水ノアカムニ堅固ナリテ也
。板ノアカムニ河不動尊陥羅尼 慈救兜
印 鍔索印 巴板ナシヘひくやうナリテラモ
ナシモヒトクレコトモヤ多羅尼と人下形とい
フシタヤ女ノアカムニ(ちり)

。うのくも 細現在の人もアヒクハラ
やアヒクヒア人ラウラウヒトムモ
巴抄ラモラウラウアベモ云心也

后より花伊勢物語より
器量より
細明石姫君也

花々とくへは過也とくも
不及也過不及ともと中庸の道ともも也
細何ともかわぬ事あるべき也

きよとあり 巴秋原氏のそとより
ハ也

花のひへはハシマムニ
もひくもひ也

○此君の　細　明石姫君也

。只者うよ 花是うちハ雲井雁のうとの也
。只ひ一うちハ細タ霧のう少し春宮(れう)
きと只ひくもとも

。人のころ一氣水は、氏の玉うつとすともや。一
きうとうとまくともひあよ内府のふだうとも

。ゆくよ 巴秋 夕霧の試よと 試よをりもな
じも念比よリ すうひきめあると どうへぬ也

。わきよとふ河 祢宜言 古今わきよとさき
えどもとやうそとそてひうきざれりうとうくらみ
。くすゑ 万木 内府のくすゑ細あつとも

。ひく、花 是ハ雲井雁の心也

細昔ハ何の分別をうく、古今うくゑうくも
うくともうくとも

アカマツトモ或イハ 三条宮トテ雲母庵ト引
ナラタシテ御門ノ事也

○大宮よりも 魂掛 祖母宮よりおもむく
一こと恨むとも父大臣の如れども
絶ゆよえどもおもむき也

かくのねどもあきらめ
おまきやまゆやかじゆく
とさつやまゆかじゆく
ごとくもとひで
あきてとち
のむり、おわがて見え
えてみゆびと、前
づくむじゆかじゆく
あきらめあきらめ
おまきやまゆやかじゆく
えまきやまゆやかじゆく

此北乃のひの 細 近江君也 以下 近江君より
とくもぐれ 或樹 内府の心也
さくよ或樹 賢良 その心説 きし

このやのくの、まひがもとじよ
セシモシヨウモトキテシテ

。女也。細ニきそこの女也。
。うらをみのりよ花あれつゝくのう心也。
。うらをみのりよ花あれつゝくのう心也。
。うらをみのりよ花あれつゝくのう心也。

。あひとくろ や秋 年より女房をよいぢんを
ひそむ

。方よりいと 細 女のゆゑ否也
万水何うまうとの外よあんと近江君のう
とのぬす
。中将うきの花 此近江君とハ柏木の中将也うね
却うる人也よそ只ひよへ脚不足ううやうれ
えやうくもとの外よハトウヒケシと女をハキモ
きうよヒトヒト巴秋不達とぞや

○久々人ハ細皆トシムの所少ヌクヤ
て何ヲモヨウニシテ花鳥玩い

おもむくとあくとやうか
とよそひつまくと
さとみりゆくやくはあがみ
うとゆくおひやくと
よみととくとくらゆくと
かくのゆくとく
わくとくとく
わくとくとく
わくとくとく

此の花ハ花 弘徽殿の女房此花を云也
わきの梅花とアラマサ也

。かゑで河匂ひとかりゑひ梅の花を下さ
きとあくとありてうし

○中將のさへひと花柏本中將の心さうひとひ
ともどりく遠慮もうくて近江君とうね牛
うし也 細 内大臣女内へトテアリ羽也中將
きみのまゆりあひはをんとあう羽とうきく
やわきもくち或抑 草子地也近江君の上
せきしもくと也
○やそ此内方の細此ついてよ近江君のゆきへ
立うち候也
或抑 女内も里居也

花端近うす君也近江君のゆゑ

○五萬の君 或れ 誰ともう一度五萬の舞
姫ス、ちらりと人うろへて近江君もくろのあひて也
手をせらうよ弄わいてのさいととりてりも
細世假悉皆物語の狂言也
○せうとい河 小賽 万葉一二のめひよハアモト五
六三四アヘアアモト五
細ちひよき目とくせ也
○ちひよき 河 古利

○手をひきせり 巴掛 車のわらじでもさう
とよへし 或掛 手搔制 手もひきとてさう
ゆまとせひ ト也

此人を細五箇君也
或批此五箇君もちやうよもうちうきみん也
けつやくと弄大目と云ふやあいての
五箇君也
中よりひ河をとき石の中よりひがあり
うち出来るのへそりあつる
或批心中よりは思惟の有ることもあらむ
又もあひ心ありきどうもあと云ふや

おまちのままでおまかせ
のあましすぐおまちがでと
やうよとくわくとせうさいせう
さいとくまくとくとくとく
内巣心
あくとくとくとくとくとく
人のきんやくともてくとく
ゆくとくまごのきくもくうよ
きじのあくわくひくとくとく
ゆくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
あくわくわくわくわくわく

ひらま 細一説泥立近うとぞ

細一說

卷之三

うえうとうとう河過去の善惡に同よよりて今
生の容貞は好醜ありえ端正忍辱中来るといふ

され近江君うちあきこもくよあねハ罪クを
ううといア一死わらを心ゆく人ハ罪めり相也
此君心淺き身もろいよ罪めりきううと云乞
乞可取シニの意トテおひかえ後之モ

後よりうつむきや

アタシよ 花 我アタシと鏡こそアタシよ近江君の似
まじめハ我多のとくせ心うつ思ひ也

おきてより花又柳のそめのまくら

卷之三

細近江君の羽

心やもよき也河海の一說可然るや
とよ身よちく細内大臣の羽

のうしての細々内のへそりはとど也
巴極きてのへそり善悪よ不及てとあらへ

○うれよ或様 大きの官つぐくや親兄弟
をそんのちうやくのへだ子そあきうあれ
親兄弟の耻とぞもとぞもてあくの事す
せばと

○おことのひ 細 おこととほまて我ひと
めめいそんあやひひきおも近江君と
きくわゆくら也

○うふくそハ 河 何ううれ也
花 近江君の約也

○あやこあやつや花 延喜式齋院或云大龜一
合今案小便筒の事也
細やかとハ大口をあわせ大口とひし事と
あわせひと云うと

○うらじい 細 内大臣也

○うづくくね或様内大臣の約也大龜の役
不似食也

○きくせん乃 巴様孝行せんのひやハ也

○とくま 巴様 實ううべと

○万水 さきるやのひと
○うの本ちや 河 古本性生れつはん
細 近江君約也

○こく 桃 近江君母のうそくと也

○めうわし 河妙法寺在近江国神崎東郡高
屋郷妙法寺邊号妙法寺村本尊觀音也
花上略今案近江君と云うとぞうね妙法寺の
徳とやうすきうるうすく也大徳吉とま
有ううううてあやううううて
ひうみ或様 俄ニヤシとちうじう財也

あくねうと 細内大臣感へ也

うのきらく 豪撫内大臣羽也

アラシの活れ或撫大とれやよ入まう

ソウスのじうひと 河若得爲人聾盲瘡癌

謗斯經故獲罪如是法華經

大もも や撫 大乘也

アラシの花ニシテノサルハモセ

アラシの花ニシテ万水トシテアマトロウナ
出さんと楚忽ヨジスルテヤシヒト内府の
心也

アラシの万水サルのゆあひぐのまど

アラシのサル 細内大臣羽

アラシのアラシ万水ナリテヤアミト
人ヨギヘハ又可然モモアリ物モモセ
孟麻中の蓬れトキマツルガモコト物との也

アラシのアラシ細内大臣の御事

アラシのアラシ細近江君の羽

アラシのアラシ或撫サルの御事

アラシのアラシ年暮のねひと

アラシのアラシ細内大臣の御事

アラシのアラシ細近江君の羽

アラシのアラシ或撫サルの御事

アラシのアラシ年暮のねひと

やめ候んとふきうさくもひ
ケモセ

アラシのアラシわくもひりと
アラシのけりうしりとモモ

アラシのアラシわくもひりと
アラシのアラシアラシ

水とくえ 河拾遺法華經とくえ
うてうるを水とくえ
いとちをく 舟枕といねんとくえ

ソクヒト 細内大臣の心

ソトトあつ立て 細内大臣の約水とくえ
あり約とくえ 新いうひがいとくえ
花提婆品云 採菜汲水拾薪設食

ソムア物と細ちとくえ

ソムシヨ 細とこのものとくえ

あやろもへ細内大臣は大臣のへよも
くそくそくそくそくそくそくそくそくそく

何とくよくよく

そりそり 万水近は君の約也

トウトウ日 や換よとハ但日とくえ
不及乞 万水内府の約水内府とくえ
それと何うふやくとくえ

ソムソム細くつひとくえ

ソクソク五位 細内大臣の供奉也

ソムソム細くつひとくえ

細是ハ近江君のゆゑありハ
アリムよ過分アリト云也 五箇君羽

トトロ、おやの細足がとまてとく
うくととくくくくあやともちあ
似合ひでまよをあはうとも

。きの君乃細近江君の約
或抄五箇君と云ふ也

わくやくわくくに或様父がゆくやくよのむ
子細有(きこえども)

花是より物語の家よ批判へる心也
ひといとひうし 河夷

細まつ公東の事とひがひと
見えてアマセバ也抑てどうぞううんとも羽
ううくひはありうううや同義理も説くス
トクミ

原稿の抄本或抄写本の如きと
そりやうもあつてゐる。

。少々或批 いりやうトカツモトモ行
君うのぞよハトカタニシム也

。あくまでも此の取扱は君の物ひれを也

ハムニ 河 适 李經 捨遺 本末也
ムルムルハムルハムルアズモトモ物ハシハヌ
ヤクニ也 万水 進退ノ損トム也
ムリシ花 立江君テキテハリテキテ
武城リヨウヒキリヨウソモカク也
ヒトミ河 本末ニカウム也

おと女めよ万水近江君也女めまつれと
内府のめひーと愁ふようくみやくよせハいりよ
おもんめはちうまつてとも

天下よ細内大臣もそやうと只ひぬけよめの
連枝つらじゆよもよももくしてハヒ也
弄なぐてごぐもよしミニヤ 已歎 天下一よ也

○此よりのやと東城草子也近江君行迹と云
○わきはれ弄是うづ近江君苦の文元刊
河人もむらかひうきくわきはれもむらかれと
カトトウ

。もとねむひはア河立れハモトヌヒリ近きれと
。カヒアスムセド、ヒトシアレシテモアシ
。うきのま、ヒト河ウヒアス、ハアリテヌセヨ
。サリテ名トモアリセキシマアヒヨスミテ
。アシヌモ、阿チヌモヒムツノヒリカズレ
。ハナヤクモトハシリタカツカツ
。アシヌモ、花ヒムツノヒリトモアシニ也
。えんうちよ花、河海ヨハ真名のアリマリ
。ミシヒチアリ、今案真草行の字アリ

六書の點々々々の也假名の草の字猶草も
物也必しも真名の文字より筆勢のとく
とてんじうちもとくして下れ羽ひとくらよ
いわうてのえのとくもとくわんばうと
くよくううとてんじうちもとくとくわんばう
いよくゆう河くまくまくまと田れ池のわふ
うくのくよくゆう物うそわうど
。アモセ川は何カニキとるどくにあふる
せんそこのアラウルハシとく

草よりアヘキニ近江君也 花古今、山川、田
子の、アヘキニ日ハあれとも君と、ひぬ日ハキ
今案此テ、駄詮ハ、いそあひ、人ノセ字、よわア大
ク、キの、駄ハ、ヒト、ロト、ヒツ、ヒツ、ヒツ、
無心駄着の、され駄と、トヘシ、トヘシ、
大川水乃河、アドリ、大川之代、あうきの、うきよ
ウキヨ、アドリ、シモヤハ、花大河、アヒト、大川水と引
う、アドリ、モヤ、又他の證哥、アヒト、可尋、万葉の、う
忍、アヒト、モヤ、アヒト、モヤ、心、う、アヒト

。ちくらるよ 巴抄筆勢の丘と長じ
一ちせうの丘ハわざしてひとこと長筆勢
まちくして一筆も長よ同心も
ひぐり 巴抄りへへへへへへ

うらをアヘ
孟近は君とのやうとをしてア
トモ也

うもくの河文とハ料紙の色れ花よつう定む
タ也今青ニ色紙とうもくこの花よけろしの申
ひつる毛りえうもくの若葉の色も
ひともくこゝへ河廁長女洗女うもくてありせき
さのの乞行幸後騎ふと在シ

細下女也或抑此下女童ハ物うれそ可然と
かうり一祝卅下女の使ハ時宜仕合十可然と

。もとつゝ取扱 売のゆきは下り

おとづれの君
おとづれの君
中幼言の君も
おとづれ女房也

万水中納言アシカミノナガミとてアラス也
萬水中納言アシカミノナガミ也

此哥本アシカミノタケもろえんやうそわづとの花也
細女アシカミの内ナカニ也 巴被アシカミ本アシカミノタケハ真赤マゼニタケハ草也假名
トと真草マゼニグサり也

女アシカミの内ナカニ也巴被アシカミ聲アシカミノヨメソシテハシツモトハシツモト也
女アシカミの内ナカニ也巴被アシカミ聲アシカミノヨメソシテハシツモトハシツモト也

萬水中納言アシカミノナガミ君ノミコト也
萬水中納言アシカミノナガミ君ノミコト也

萬水中納言アシカミノナガミ君ノミコト也

萬水中納言アシカミノナガミ君ノミコト也

花アシカミの内ナカニ也巴被アシカミ君ノミコト也
弄無心取着也万葉アシカミ類アシカミノヒメり但無心
取着アシカミの内ナカニ也取着アシカミの内ナカニ也巴被アシカミ君ノミコト也
哥立アシカミの内ナカニ也巴被アシカミ君ノミコト也
万木アシカミ君ノミコト也中納言アシカミノナガミ君ノミコト也
万木アシカミ君ノミコト也

○
○
○
○
○

おのの孟近江君羽州とやうて也
おうとのひよと花箱崎のねとつ結もと
をゆくよとくうう也
弄近江君立ぬよとやうとハズモトミト
トヨウトヤウサヘは良物語の狂言也
いわまくら河審のまくらハ合香の下品也
也仍井へよとえど

すまへやうすは東林四君子トナラシモヘアハ
トモカウダガタラシムシテモラシバシモアハ
ハラシモアハラシモア
ヨリヒサスル乃 巴林 壬戌年秋月の日
モニシテシモアハシモ草子也ヨウルガト
孟是也のトセ也ハシモアハラシモア



